

NPO 法人日本ビオトープ協会 北海道・東北地区活動（感受性ミズアオイ保護保全）

大槌駅前（須賀町）湧水池 「(仮称) 大槌生態園」エコアップ作業

日時：2021年4月24日（土）9:30～12:30

【参加者：18名】

主催者：県環境アドバイザー 白澤良一氏（三陸自然学校大槌代表）

岩手県立大学 島田直明先生指導（総合政策学部島田ゼミ）・ゼミ生 1名（3年次）

町役場・生涯学習課：阿部慈郎課長（中央公民館館長・図書館長） 他担当者 2名（名刺無し）

・町民課：阿部 逸主査（町民生活班）

（* 新任町民課長 関貴紀氏は、2012年「三陸復興の森プロジェクト」自然環境復元協会・ビオ協
・静岡県造園緑化協会支援「復興の森プロジェクト植樹祭」のご担当者）

町民：岡本隆子さん（赤浜）他5名

釜石鶴住居根浜：岩崎昭子さん（宝来館女将）

《マスコミ》

花巻：澄川嘉彦さん（ハヤチネプロダクション代表）

岩手日報：加藤菜瑠さん（釜石支局・記者）

朝日新聞：東野真和さん（釜石支局長・編集委員）

《後援者・アドバイザー》

日本ビオトープ協会：野澤日出夫副会長・主席ビオトープアドバイザー

（認定NPO法人環境パートナーシップいわて 特別常任顧問）

【エコアップ作業】

《現地観察と解説・講話・懇談》

島田直明先生・白澤良一さん・阿部慈郎課長・野澤日出夫副会長

- * 数十年前は、田んぼ・湿地・サケマスの加工場、昭和40年代埋め立て宅地開発
- * なぜこの湧水池にミズアオイがあるのか？（津波によって埋土種子から再生）
- * なぜ希少な価値があるのか？（田に農業が使われる以前の農業感受性ミズアオイ）
- * 他の水系と混ざらない独立した湧水湿地（農業耐性ミズアオイ遺伝子と交雑しない）
- * コメと一緒に伝来、野菜として食されていた。コメの生産性向上のため雑草とされ駆除。
- * 貴重なイトヨ・津波によって海洋性イトヨと淡水性イトヨが交雑、新たな主として固定された



《作業》

- 事前現地で採取したタコノアシ・ミソハギ種子など池周囲に播種（種子は、このエリアから島田ゼミで事前に採り貯めた）
- ミズアオイ種子入り泥土の池内への散布（県立大学島田ゼミにて採種泥土保管）
- ヤナギ枝の採取と池北側への挿し木（20 cm × 約 50 本・敷地内の自生ヤナギから採取）

